

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ ②ダイナミックな多角的、立体構造：

神の視点、人類史に先立って配備された摂理

→ ③古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：

過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教 その13

パウロの第三次宣教旅行 →使徒の働き18：23-19：40

アンテオケ → ガラテヤ地方、フルギヤ → エペソ

☆アレキサンドリヤ出身のアポロ、エペソのシナゴグで大胆にイエスを証し

☆プリスキラ、アキラ夫婦、アポロに「神の道」を解き明かし、アポロ、アカヤへ

☆パウロ、十二人の弟子たちに「主イエスの御名」によるバプテスマを授ける

☆パウロ、三ヶ月間シナゴグで「神の国」について、

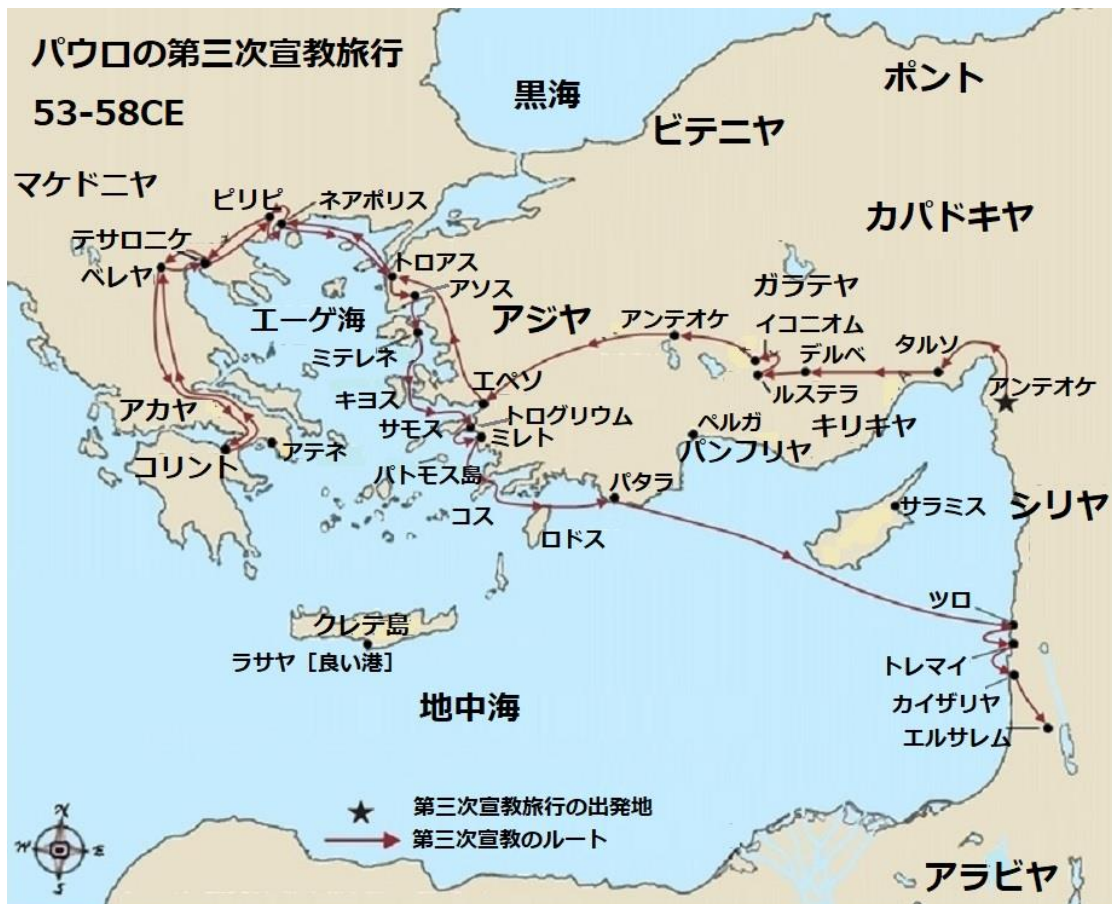
「ツラノの講堂」で二年間、「主の道」を語る

☆アジアにいる者すべて、「主のことば」を聞く

☆パウロの除霊を真似た、ユダヤ人の魔よけ祈祷師たちに災いが下る

☆町中の多くの者たち、魔術の本、悪霊に関わるものを公の面前で焼却

☆「主の道」に関して騒動勃発



聖書

使徒の働き18章23節－19章（新改訳2017）

☆パウロ、既存の諸教会の教化、奨励のために、三度目の宣教の旅に出る
 ☆パウロに自由が与えられていた最後の日々

18章

- : 23 「パウロ…また出発し…次々に巡って、すべての弟子たちを力づけた」：
 ＊持病を抱えていたパウロがそのように精力的に多くを達成することができた秘訣は？
 →ピリピ人4：12－13
- : 24 「アレクサンドリア」：
 ＊エジプト北部ナイル川河口のデルタ地帯
 ＊アレクサンダー大王が設立、ギリシャ文化とヘブル文化の主要な中心地
 ＊LXX『ギリシャ語訳ヘブル語聖書』、ここで生み出された
- : 25 「この人…正確に語ったり教えたりしていた…ヨハネのバプテスマしか知らなかった」：
 ＊バプテスマのヨハネ、用語「主の道」をイザヤ書から引用
 →イザヤ書40：3

バプテスマのヨハネのメッセージの三大特徴

1. 「悔い改めが基」、悔い改めによる罪の赦し
2. バプテスマ/洗礼を通しての「信仰表明」
3. イエス・キリストは「救いを完成するために来られた」ことを告知

バプテスマのヨハネに欠けていたメッセージ

1. 十字架
2. 甦り
3. 聖霊によるバプテスマ/洗礼

→**2**ダイナミックな多角的、立体構造：歴史、物事の背後に神意

- : 26 「彼は会堂で大胆に語り始めた…プリスキラとアキラ…神の道をもっと正確に説明…」：
 ＊アポロの教えを受ける姿勢は謙遜のしるし
- : 27－28 「アポロはアカイアに渡り…信者になっていた人たちを、大いに助けた…」：
 ＊アカヤ地方の主都はコリント
 ＊アポロ、コリントで、教会分裂、派閥の指導者の一人に数えられるようになった

19章

アジヤ州

☆小アジアの西部
 ☆エペソはアジヤ州の首都
 ☆ローマ帝国の力、ギリシャ文化の影響、東洋の迷信と魔術の風潮下

- : 2－4 「…聖霊がおられるのかどうか、聞いたことはありません…ヨハネのバプテスマ…」：
 →この問答に対する答えはローマ人8：9
 ＊ヨハネの洗礼、甦りのキリストを信じる信仰に至る前のメシヤとメシヤによる救いを期待
 →ルカ16：16

聖霊

聖霊の働きを表現する五つの動詞

1. 神の家族に生まれた
 →ヨハネ3：6
2. 一つのからだになるべく洗礼を受けた
 →コリント人第一12：13

聖書

3. 神の霊が内住された

→ローマ人8：9

4. 贖いの証印が押された

→エペソ人1：13

5. 満たされる

→エペソ人5：18

：8-10「…会堂に入って、三か月の間大胆に語り…ティラノの講堂で論じ…二年続いた…」：

＊パウロ、この間に、コリントを訪問した可能性

→コリント人第二12：14、13：1

＊この期間は、パウロの信仰生活において最も実り豊かな時期

ツラノの学校

☆「ツラノ」という名の公共の建物、あるいは、講堂

☆東方の教会設立のため、忠実な助け手たち、パウロを助けた



エペソのツラノの学校跡

：11-12「神はパウロの手によって、驚くべき力あるわざを行われ…手ぬぐいや前掛け…」：

＊かぶり物の中に入れる汗取り布や革の仕事用エプロンは象徴、神が奇蹟を行われた

：13-16「…巡回祈禱師のうちの何人か…悪霊につかれている人が彼らに飛びかかり…」：

悪霊

☆サタンの軍隊、悪霊どもは知覚、知識があり、臨機応変

☆使徒の働きでは、四度目のサタンの挑戦、悪霊の出現

：18-19「…魔術を行っていた者たち…その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた…」：

＊焼却されたもの、一占いに用いられた人工遺物、魔術の書物、オカルトの類— はサタンの戦いの武器

＊魔術への入門、—ウィジャボード、占星術、ロールプレイングゲームほか— は、すべてサタンに門戸を開く

：20「こうして、主のことばが力強く広まり、勢いを得ていった」：

＊パウロ、エペソに滞在していた間に、コリント教会の諸問題で非常にかき乱された

＊パウロは明らかに、記録に残されていない書簡をコリントの人たちに宛てて書いた

→コリント人第一5：9

：21-22「…パウロは御霊に示され…エルサレム…ローマも見なければ…」：

＊パウロの心はいつも、聖霊によってユダヤの信徒たちの必要へと導かれた

聖書

- : 23-27 「…デメテリオという名の銀細工人…この女神のご威光さえも失われそう…」 :
 - *デメテリオ、パウロの宣教の働き（ミニストリー）の影響力を認めざるを得なかった
 - *宗教的熱狂は、格好の偽善的口実
 - *私利私欲が実際の要因
- : 28 「…彼らは激しく怒り、『偉大なるかな、エペソ人のアルテミス』と叫び始めた」 :
 - *ギリシャ語の「アルテミス」は「エペソ人のアルテミス」、すなわち、「ダイアナ」のこと
- : 29 「そして町中が大混乱に陥り、人々は…一団となって劇場になだれ込んだ」 :

劇場

☆大きさは、直径約200m [フットボール場、二つ分]、56,700人収容の座席
 ☆神殿の大きさは約130m×約67mで、高さ約18mの円柱が百二十七本立っていた

- : 30-31
 - *パウロは再び、身をおかし、危険を免れた
 - *アジア州の支配者たち、反乱が起こった場合、自由都市としての称号を失う危険を恐れた
 - *エペソでの苦難をパウロ、「エペソで獣と戦った」と表現
 - コリント人第一-15 : 32
- : 32-40
 - *町の書記官、エペソの群衆が堅持すべき威厳に訴え、かろうじて騒ぎを鎮静
 - *パウロ、マケドニヤへ出立、エルサレムに向けて第三次宣教の旅を続ける

コリント教会の問題、—パウロの三度の訪問と四度の書簡—

訪問	関連聖句	書簡	関連聖句
一度目 ☆コリント教会設立時	コリント人第一 2 : 1-5	一度目 ☆「前の手紙」 ☆誤解を招くことになった	コリント人第一 5 : 9
☆クロエの家の者たちが 「コリントからの手紙」を 持って、パウロを訪問 ☆コリントの問題に言及	コリント人第一 1 : 11 7 : 1ほか	二度目 『コリント人第一の手紙』	
二度目 ☆コリント短期訪問 ☆心痛な思いで訪問	コリント人第二 13 : 2		
*テトスの報告 マケドニヤで、テトス、 教会の問題改善を報告		三度目 ☆警告の「厳しい手紙」	コリント人第二 2 : 4、7 : 8
		四度目 『コリント人第二の手紙』 ☆和解の喜びに満ちた手紙	コリント人第二 8 : 16-24
三度目 *この後、パウロ、マケドニヤ を通り、エルサレムへ急ぐ	使徒の働き 20 : 2		